悪夢の暴行現場
家で待つ悪夢

両足を掴まれ、男の入れやすいように股を広げられます。
膣に男のはれ上がった肉棒が繋がってるのが見えました。
赤い血が肉棒と膣の間から滲み出ています。
力ずくで処女を奪われているのに抵抗もできず、苦痛を耐えるだけで精一杯でした。

ズンッ　ズンッ　と中から突き破られそうなほど突き上げられ、苦しくて息もできません。
私の事などお構い無しに男は押し潰すように体重をかけて強くチンポを打ち付けます。
肉棒は膣の奥へ奥へとめり込んでいきました。
自分でも信じられないほど膣が男のいきり立った肉棒を飲み込んでいきます。
お腹が苦しくて堪りません。下腹部をかき回される感覚に吐きそうでした。

必死に腰をくねらせ、苦痛に堪えながらオマンコで肉棒を必死に扱きました。
お尻を持ち上げ下ろすたびに耐え難い痛みに叫びそうになります。
突き上げられたチンポが杭のように押し込まれ、
私の中の生臭い精液を掻き出して埋没します。

その光景を見ながら、涙がまた止まらなくなりました。
膣から吐き出される大量のザーメンを見て、言葉にできない不安と絶望に
打ちのめされながら、それでも男への恐怖心で必死に腰を動かし続けます。